

民医連厚生事業協

共済だより

2025年
10月
第210号

発行所●全日本民医連厚生事業協同組合

〒113-0034 東京都文京区湯島2-4-4

平和と労働センター6F

TEL03-5842-5650 FAX03-5842-5652

Eメール:k-tayori@min-iren.gr.jp

(共済だより応募用)

kyousai@min-iren.gr.jp

(厚生事業協宛)

ホームページ:<https://min-jigyo.or.jp>

バックナンバーの記事(一部のみ)はこちらから



いわさきちひろ「りんごの精と少年」(1967年) (14ページに作品のコメントと美術館のご案内をしています)

主な記事

- 伝えていきたい私の民医連^{①⑥⑦}=番外編= 北海道勤医協 堀毛 清史
- いま、なぜ憲法改悪なのか パートⅡ^{①④⑩} 若手弁護士の会
- 縮図からみる世界^{⑧⑨} 本格的な新冷戦時代の到来だ 斎藤 貴男
- シリーズ「戦後80年の年に」 沖縄に連帯して 瀬長 和男(沖縄)
- 私の職場を紹介します^{②②} 癒しの環境／神奈川・さがみ生協眼科 ^{ペンネーム} まるちゃん
- 私の趣味・こだわり紹介^{⑨⑩} 植物の無限の楽しみ方／宮城・芳賀 明子 ^{ペンネーム}
^{⑨①} キラキラオランジェット／島根・みかん



2025年度
スポーツ文化企画
のお知らせ

<https://www.min-jigyo.or.jp>

※QRコードは上部にあります。

今夏、ドキュメンタリー映画『黒川の女たち』が全国の映画館で公開されました。この重大な戦時性暴力の告発については多くのメディアが報じていますが、とても意義深い作品ですのでご紹介します。

1. 満蒙開拓団 ソ連兵への「性接待」

1945年、ソ連参戦や敗戦を機に海外から引き揚げた民間人は318万人あまり。その中でも満州からの引き揚げが最も多く100万人といわれています。日本の事実上の植民地である満州国には、国策により日本各地から「開拓団」と呼ばれる集団移民が入植していましたが、ソ連軍の侵攻や地元民（中国人）の襲撃により多くの人が命を落とし、性暴力に遭い、あるいは集団自決にまで追い込まれました。

そのような絶体絶命の状況下、黒川（岐阜県白川町 旧黒川村）の満蒙開拓団においては「ソ連兵に頼んで、中国人の襲撃から守ってもらう」という選択がなされました。その際、開拓団がソ連兵に「見返り」として差し出したのが未婚の女性たちだったのです。「開拓団660人の命を救うために犠牲になってくれ」と大人たちに追いつめられた女性たちは、2カ月もの間、ソ連兵の「性の相手」を強いられ犠牲となりました（途中、性病などによって4名が亡くなりました）。

シリーズ

いま、なぜ憲法改悪なのか パートⅡ

⑭ 満蒙開拓団のソ連兵「性接待」という暴力 ～映画『黒川の女たち』が映すものについて～



「明日の自由を守る若手弁護士の会」共同代表 黒澤いつき
公式ブログ <https://www.asuno-jiyuu.com/>

黒澤いつき



その上、日本に引き揚げた後、彼女たちはあろうことか「汚れた女」などと蔑まれ、誹謗中傷と差別を受けました。屈辱に耐えかね故郷を離れた人もいます。差別や侮辱を恐れて被害女性たちは口を閉ざし、開拓団員たちも事実を語らず、長らく「性接待」はなかったことにされました。被害女性が自ら被害事実を公表したのは2013年のことでした。

2. 過去の総括と被害回復

映画は、この「性接待」被害について取材を重ね報じてきた松原文枝氏（テレビ朝日）によるものです。女性たちの被害告発に込められた悲しみ・怒り・悔しさは想像を超え、犠牲を追った開拓団の「大人たち」から謝罪が一切なかったことに、やりきれない思いになります。

しかし刮目すべきは、彼らの子どもたちが親たちの罪を知った後にとった行動です。開拓団遺族会会長の藤井氏は、女性たちや存命の開拓団員を訪ねて回って被害態を詳細に聴き取りました。そして、開拓団が80年代に建てた何の説明文もない「乙女の碑」の横に碑文を建てようと遺族会の中で議論を重ねました。女性たちの「被害の事実を忘れないで欲しい」という意志と、遺族たちの「親たちが強いた犠牲をなかったことにしてはならない」という意志が碑文を完成させ、除幕

式で藤井氏は遺族会会長として女性たちに謝罪しました。また、故郷を恨みながら遠く東京で暮らす女性は、家族にすら自身の被害を語らずに生きてきましたが、被害の事実を知ったお孫さんから労いと敬愛にあふれたメッセージを受け取ったことがきっかけで、藤井氏の謝罪を受け入れました。過去の総括と被害者の尊厳が回復されていく過程は、戦争犯罪や戦時性暴力のその後を考える上で1つのモデルになると感じます。

加害者の子孫は親の罪とどう向き合うべきか、被害者の尊厳回復はどうあるべきか、「歴史を学ぶ」とはどういう営みなのか——これは日本国憲法97条に込められた、今と未来を生きるために絶えず過去を振り返り続けなければならないというメッセージとも通じます。

3. 現代・未来を生きるためにこそ

女性たちの「憲法9条は大事だ」「戦争で犠牲になるのは女だ」という言葉も印象的です。戦争、植民地支配、ソ連兵の性暴力、犠牲の強要という暴力：数々の暴力と差別の複合的な重なり合いから、目をそらさず、ていねいに検証・考察していく姿勢が「戦争のない未来」を作る気がしてなりません。

映画『黒川の女たち』
上映情報はこちら



シリーズ

縮図からみる世界【89】

斎藤 貴男



本格的な新冷戦時代の到来だ

「今日、人類は再び戦争か平和か、対話か対決か、ウイン・ウインかゼロ・サムかの選択に直面している。中国国民は、正しい歴史と人類文明の進歩の側に立ち、平和的發展の道を堅持し、各国国民と共に人類運命共同体を構築する」と、習近平国家主席は演説した。北京の天安

門広場で9月3日に開かれた「中国人民抗日戦争（日中戦争）および世界反ファシスト戦争勝利80年」記念式典。習氏の左右にロシアのプーチン大統領と北朝鮮の金正恩総書記が肩を寄せ、核弾頭の搭載も可能な大陸間弾頭ミサイルをはじめとする新鋭兵器群の大規模軍事パレードを観閲した演出も、米国に対抗する中露朝の結束を印象づけていた。

いよいよ本格的な新冷戦時代の到来だ、第3次世界大戦も間近しか、と考えると恐ろしいが、事はそれほど単純でもなさそうだ。

中露朝の3首脳には当然、3者3様の思惑がある。演出を主導した習氏にしても、軍事同盟的なイメージだけを先行させてしまうわけにはいかない。式典の前日にも、天津での「上海協力機構（SCO）」首脳会議で、「平等で秩序ある世界の多極化を」と提唱したばかりだった。真っ当な考え方だと思う。

中国がSCOでの習発言を現実にしたければ、いわゆるグローバルサウス（南半球に多い新興国や途上国群のこと）の支持を広げるしかない。第3次大戦に通じかねないような動きは慎むはずだ、という見方も十分に成立するのである。では、日本はどうすればいいのか。浮き足立った政府はこれまで以上に米軍との一体化に躍起だが、これは最悪の選択だろう。

なにしろ中露朝のいずれとも広い太平洋で隔てられた米国と異なり、日本は彼らと一衣帯水の位置関係にある。危な過ぎて米国と同じ歩調など取れつこないというのが、それこそ「地政学」ではあるまいか。

旧ソ連の隣国フィンランドや、旧東独と対峙していた旧西独の対共産圏外交、あるいは現代インドの全方位外交にも学びつつ、独自の新たな道を模索するしかないと考える。多極化が不可避の世界にあつて、たとえばグローバルサウスと米国との架け橋のような存在になることを目指すべきである。

書生論と嘯（うな）え。米軍の不沈空母であるつもりが、いつの間にか戦争の最前線にされていた、なんていう悪夢よりは、はるかにマシで、リアルな発想だと自負するものである。

斎藤 貴男（さいとう たかお）

1958年東京生まれ。早稲田大学商学部卒。英国バーミンガム大学大学院修了。主な著書に『驕る権力、煽るメディア』『決定版 消費税のカラクリ』『いちばんたいせつなもの』『マイナンバーが日本を壊す』『マスゴミって言うな！』『こんな部活あります 正射必中！弓道部』（2024.3）など。





シリーズ「戦後80年の年に」

沖縄に連帯して

抗議行動で被害者が加害者に



砂杭打設作業船が消えたままの大浦湾

辺野古新基地建設を巡っては、「法」の解釈が歪められたり、沖縄防衛局が「私人」に成りすましたりと、国によるおかしい事が続いてきました。が、今度は、交通事故の被害者が加害者にされる冤罪事件が、防衛局と沖縄県警によって作られようとしています。

昨年6月28日に発生した、安和栈橋前でのトラックによる業務上過失致死・致傷事故は、それまで抗議行動参加者らと土砂搬入事業者間で暗黙の了解とされていた「牛歩行動」を、元受け企業が変わったとたんに、安全よりも効率重視の車両誘導に変えられたため、発生しました。

新基地建設の元受け企業が大林組に変わると、牛歩一回につき車両一台出しという暗黙の了解を無視し、車両2台

出し、3台出しの安全を軽視した車両誘導が始まりました。私たちが事故発生の危険性を防衛局職員に指摘していた中、栈橋出口側の「車両乗入部」でトラックによる「過失致死・致傷事故」が発生し、警備員が死亡し抗議行動参加者が重傷を負いました。

事故が発生した「車両乗入部」は、道交法では歩道とされる場所です。そこに「人」がいるのにも拘らず、トラック運転手に国道に出るよう指示した警備員と、安全確認を怠り、指示のまま国道に出たトラック運転手に直接的な責任があります。が、やはり、効率重視の車両誘導を強要した防衛局の責任は免れません。

この事故から1年以上も県警による事故原因究明がされないままですが、8月に2回、県警は事故で重傷を負った被害者に対し、重過失致死罪の「被疑者（加害者）」として事情聴取を行いました。防衛局と県警は当初から、被害者の「車道への飛び出し」が事故の原因だと決めつけ、それに沿った「結論」を出そうとして



被害女性への捜査を報じた県内2紙

いるようですが、私たちは事実に基づく「結論」が出されるよう声をあげています。

大浦湾から砂杭打設作業船が移動して3カ月、地盤改良工事は止まったままです。完成しない新基地建設を中止させるため、声をあげ続けましょう。

2025年9月5日

沖縄民医連共済会連絡会

会長 瀬長和男

◎カンパ送付先

郵便振替口座

加入者名：沖縄県統一連

口座番号：01710-8-62723

=表紙のコメント=

いわさきちひろ 「りんごの精と少年」(1967年)

りんごの精と少年はどんなおはなしをしているのでしょうか？画面に配された秋色のグラデーションのなかに、りんごの鮮やかな黄色がいろどりを添えています。



●ちひろ美術館・東京では、戦後80年 ちひろと世界の絵本画家たち 絵本でつなぐ「へいわ」展を10月26日まで開催中です。

●安曇野ちひろ美術館では、「ちひろ 本を読む人 描く人」展を11月9日まで開催中です。同時開催：「ヒロシマ🍎トマト 司 修」展

〈イベントのお知らせ〉松本猛講演会「絵本とは何か—起源から表現の可能性まで」
日時：11月3日（月・祝）13：30～15：00 会場：安曇野ちひろ美術館

参加費：500円（入館料別）・オンライン500円 定員：会場50名・オンライン100名
申し込み：要事前予約（公式サイト/Peatix/TELにて）詳細は、公式HPをご覧ください。

ちひろ美術館・東京 TEL.03-3995-0612

安曇野ちひろ美術館 TEL.0261-62-0772

開館情報はホームページをご確認ください。<https://chihiro.jp/>

